

ニュースで広がる理科

日本の野生動物はどこから来たのだろう

宮田新作
早稲田実業学校初等部
理科専科教諭
イラスト みわまさよ

かつて日本に生息し、20世紀はじめに絶滅したとされるニホンオオカミ。その起源は、異なる時期に日本に渡ってきた大型のオオカミと、より小型とみられる別のオオカミのあいだに生まれた交雑種だったと、日本の研究チームが発表しました。

朝日新聞5月19日、朝日小学生新聞5月31日の記事などをもとに作成

ニホンオオカミの起源に新説

ニホンオオカミは体長80～110センチほど。1905(明治38)年に奈良県でつかまっていたのを最後に生きていることが確認されておらず、絶滅したとされます。

数万年前の日本列島には、体長120～140センチほどの巨大なオオカミがいたことがわかっています。ニホンオオカミの起源については、この巨大オオカミが小型化したという説と、巨大オオカミとニホンオオカミは別種とする説がありました。

山梨大学や国立科学博物館などの研究チームは、栃木県で見つかった約3万5千年前の巨大オオカミの化石と、5千年前のニホンオオカミの化石から採取したDNAを解析。その結果、従来の二つの説のどちらでもない新しい説を発表しました。

研究チームによると、5万7千～3万5千年前に巨大オオカミが大陸から日本列島に渡ってきました。さらに3万7千～1万4千年前、大陸から別のオオカミが新たに渡ってきました。後から来たオオカミは小型だった可能性があります。巨大オオカミと後から来た別のオオカミが交雑し、ニホンオオカミになったそうです。



国立科学博物館のニホンオオカミの複製 ©朝日新聞社



宮田先生

童話「赤ずきん」や日本の昔話「オオカミのまゆ毛」など、オオカミの出でくる話は各地に伝わっています。それだけ人々の生活に深くかかわってきた動物なのですね。

深めよう

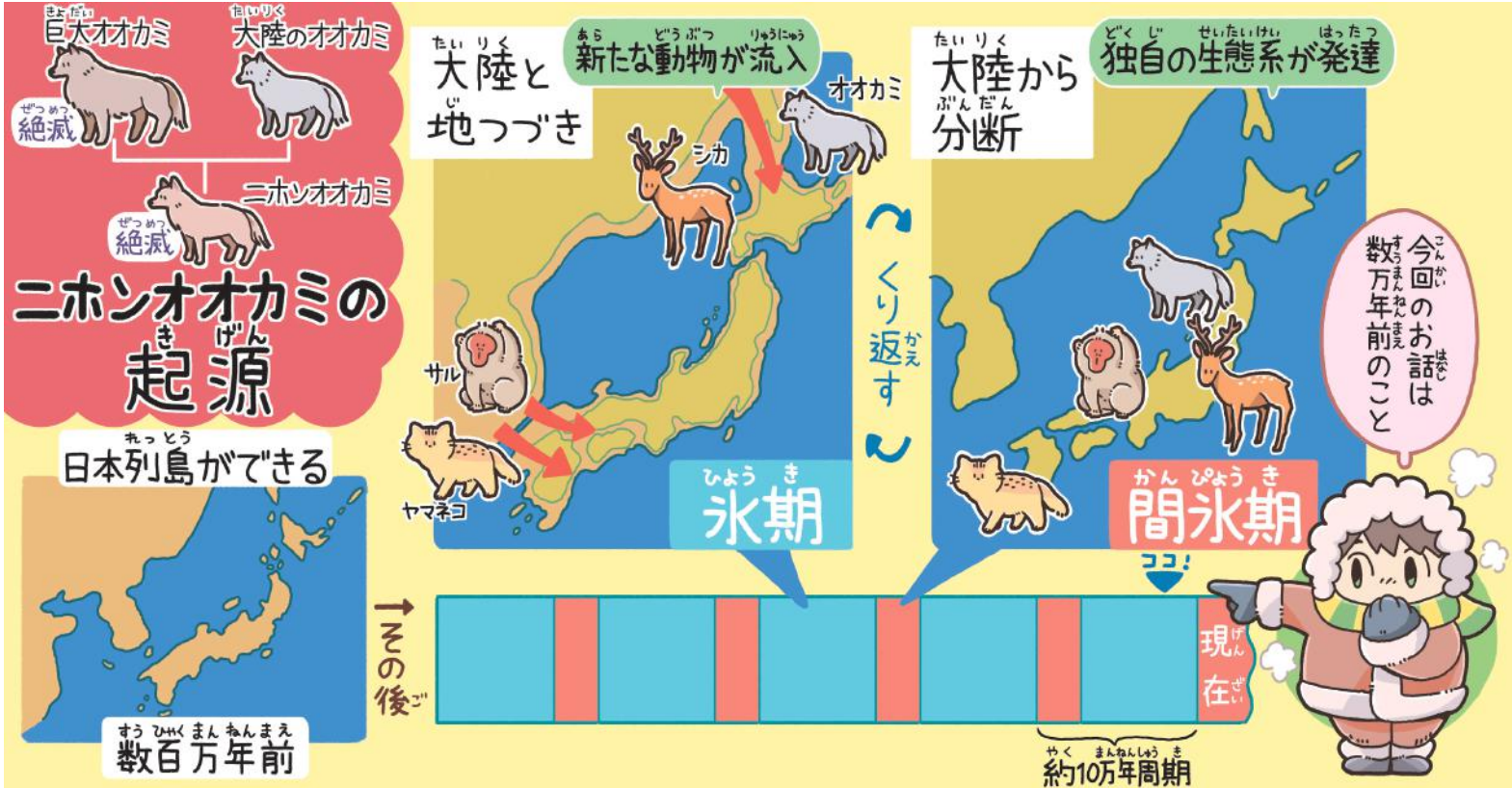
オオカミはユーラシア大陸などに生息する狩りの得意な肉食動物。おもにネズミやウサギなどを捕らえて食べます。

ひとくちに「オオカミ」といっても、多くの「亜種」が存在します。亜種とは、ある生物の「種」の中で、独自の特徴をもつものの小さな分類。同じ種の生物がはなれ

同じようでちがう「亜種」

た地域でくらすうちに、別の種として独立するほどではないものの、体の大きさや毛の色などの特徴がほかと区別できるほどちがいをもちようになったものです。

オオカミの亜種にはニホンオオカミのほか、現在も生息しているシリンオオカミやシベリアオオカミなどがいます。記事の



広げよう

オオカミは大陸から日本列島に渡ってきました。でも、どうやって? もちろん泳いだり、空を飛んだり、船に乗ってきたりしたわけではなく、歩いてきたのです。日本は海に囲まれているはずなのに、どうしたことでしょうか。

ユーラシア大陸の一部が切りはなされ、

時代でかわる陸地のすがた

今の日本列島とほぼ同じ形になったのが数百万年前。この100万年ほどは気温が下がる「氷期」と、比較的気温が上がる「間氷期」を、およそ10万年の周期でくり返してきました。

氷期には降った雨(雪)がこおって陸地にたまり、海水が減ります。すると100メー

トル以上も水面が低くなって浅い海底が陸地になり、歩いて渡れるようになるのです。

オオカミが渡ってきた数万年前は、日本列島が大陸と地つぎになる時期でした。ただし、日本海は平均の深さが1600メートルほどもあり、氷期でもほとんど陸地になりません。動物が渡ってこられる範囲が限定されていたことが、日本独自の亜種を生んだのかもしれない。

調べよう

日本でみつける絶滅生物の化石には恐竜、マンモス、オオカミなどさまざまなものがあります。これらの生物が生きていた年代と、その当時の「日本列島」の姿を調べてみましょう。

日々のニュースを題材に理科の学びを深めます。ほかの教科や世の中のできごとに関心を広げて、気になったことがあれば自分でも調べてみましょう。次回は25日に掲載の予定です。来週は「空からのたより」です。